

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名・教材名 おもしろいと思うところをしょうかいしよう 「三年とうげ」

2 児童の実態と本単元の意図

(一部省略)

児童は低学年では、登場人物の行動を中心に場面の様子を読み取ることがを学習してきた。3年生になってからは、登場人物の気持ちや性格、情景を、場面の移り変わりに注意しながら読むことを学んできた。「ちいちゃんのかげおくり」では、ちいちゃんが「かげおくり」をする2つの場面を比べ、その移り変わりに注意して物語を読んできた。本単元でも、2つの「転ぶ」という行為が出てくるが、それぞれを比べることで、情景の違いや登場人物の気持ちの変化を読み取らせることができる。また、児童は、これまでも1年で「おおきなかぶ」、2年で「スーホの白い馬」などの民話の学習をしてきている。これらに共通する特有の語りの言葉や話の展開の楽しさを「三年とうげ」でも読ませていきたい。また、1年で学んだ昔話「おむすびころりん」や「まのいいりょうし」、神話として2年で学んだ「いなばの白うさぎ」など、語り継がれてきた話の持つ魅力も思い出すことができるであろう。

本教材「三年とうげ」は、朝鮮半島に伝わる民話であり、外国の雰囲気やさし絵からもよく伝わってくる。「ため息の出るほど」よい眺めの峠の様子が黄色を中心にほのぼのとしたタッチで描かれている。子供たちもそのさし絵から、登場人物の暮らしぶりや人柄を想像をふくらませながら読んでいくことであろう。そして、その魅力的な峠に伝わる恐ろしい言い伝えにも引きつけられていくことと思う。情景描写、言い伝えの歌、おじいさんとトルトリの性格などをたどりながら、たくましくかつ大らかに生きる様子を十分に味わうことのできる教材である。

本単元の指導にあたっては、小学校学習指導要領国語第3学年及び4学年の「C読むこと」の指導事項「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づくこと。」を指導していく。本単元で取り上げる言語活動は「民話や昔話のおもしろいところを紹介する」とし、具体的には、あらすじやおもしろいところを紹介カードにした「読書チケット」を作成していくこととした。それを友達や家の人に紹介し、質問や感想を交流することで、より深い読み取りにつなげていきたいと考えた。さらに、考え方の違いにも気付くことができるものと思われる。この話は、場面の様子や登場人物の言動が大変分かりやすく表現されており、児童は、「三年とうげ」がどんな場所なのか、どんな登場人物が出てくるか興味を持って読み進め、場面の展開を捉えることができると思われる。また、「三年とうげ」は同じような表現や同じような場面が繰り返され、その表現の工夫が読者である児童を強く引きつけていくという民話独特の構造も持っている。この単元で身に付けていく力が、これからの読書単元においても生かされることを期待したい。授業の最後には、「三年とうげ」から、他の民話や昔話に読み広げていき、民話や昔話の特徴にも着目しながら「おもしろい」と思うところを紹介する発展的な活動に取り組んでいきたい。「読書チケット」には、「題

名」「作者」「登場人物」、そして、本の「あらすじ」や「おもしろいところ」を書く。おもしろいところには、「根拠となる叙述の引用」と「説明と理由」を書かせたい。友達と3人グループで対話を行い、聞き手が質問したりよいところを伝えたりしながら、自分の感想を確実なものにしていく。また、今までに身に付けた力、つまり物語の「起承転結」を捉えあらすじを書く力や、中心人物の気持ちや行動の変化をとらえる力などを使いながら学習を積み重ねていく。そして、本単元では、民話の世界を広げ読み通す力、民話のおもしろいところを見つけ理由を添えて書く力、友達との感じ方の違いに気付く力を、紹介するというゴールを意識しながら身に付けていきたいと考える。

本時では、まず、叙述に即しておじいさんの気持ちの変化を読み取りたい。叙述に目を向け、そこでのおじいさんのつぶやきや顔つきを考えさせることでおじいさんの心情の変化をとらえさせていきたい。また、トルトリの人物像を想像したり物語の中に出てくる2回の「転ぶ」を比べたりすることで、起承転結の「転」の楽しさにも触れさせたいと思う。それらをふまえた上で、おもしろいところを見つけ、理由を加えグループの友達と交流していく。伝え合う中で友だちの感想との違いに気付いたり、自分の考えに自信を持ったりする経験を積み重ねていきたい。このことが、自らを高める対話活動につながっていくものと思われる。ここで選んだ「おもしろいところ」が「読書チケット」を書く時の材料の一つとなり、製作の際に、より積極的に楽しく取り組めることを期待したい。

3 研究テーマとの関わり

〈研究主題〉

主体的に学び、豊かに表現し合う児童の育成

～対話を通して学びを深める指導の工夫～

〈仮説〉

児童の実態に応じ、様々な言語活動を工夫し、対話の力を付ければ、自分の考えを持ち、伝え合う力が高まるであろう。

○年間を通じて

●この単元を通じて手立て

手立て1

「基礎学力の充実」

○音読

- ・様々な音読の体験を通して、声を出す楽しさを味わわせたり、内容の理解につなげたりする。一斉読み、足し算読み、役割読み、リレー読み、交互読みなどの読み方を行い、意欲的に音読活動に取り組ませている。

○4文スピーチ

- ・朝の会のスピーチに継続的に取り組むことで、「話す・聞く」ことへの意識が高まっていくことを期待したい。スピーチでは、長い文を要求するのではなく、4文を基本に言いたいことを端的にスピーチすることで、「起承転結」の文作りを意識し、目的に合った話ができるようにしていきたい。また、話し手の発表原稿の他に聞くことのチェックカードを利用し、話すことだけでなく聞くことの指導を十分に行っていく。

○声だし体操・早口言葉

- ・授業の始まりに口形練習を兼ねて動作を入れた声だし体操を単元によって行っている。「声のチャンネル」に合わせて声を出したり、早口言葉を取り入れたりして、楽しく継続することで、自分の声を出すことに自信を持ち、考えをしっかりと伝えられる児童にしていきたい。

○辞書の活用

- ・3年生から辞書の利用を行っている。使い方を学習してからは、いつも近くに置き、分からない言葉があるとすぐに引き、言葉を楽しく習得していこうという児童が多く目立つようになった。自分の予想が当たったときや違う意味に出会ったときの感動が一つ一つの言葉の習得につながっているように感じる。調べた言葉のページには、付箋を付け自分の学習の足跡を残すことで、これからの意欲にもつながるものと思われる。

●単元に合わせた音読カードの作成

- ・家庭学習においては長文の教材文を読むというだけで、子供たちは敬遠してしまうときがある。また、1年生からずっと取り組んでいる音読カードへの記入に慣れ、ややマンネリ化の傾向が見られる児童もいる。そこで、本単元では、家庭での音読にも毎回のめあてを持たせた単元独自のカードを作り、授業に合わせて利用し、教材としっかり向き合えるようにしていきたい。毎回のめあては、単元を進めていく過程に合わせたものを作成し、ゴールに向けての有効な音読、内容を読み取る際の手助けとなる音読ができるよう支援していく。

手立て2

「読む力、書く力の育成」

○書き込みノート

- ・教科書本文が書かれたプリントを本の形にした書き込みノートを作成し利用していく。毎時間、自由に書き込んだり、家庭学習で気付いたことを書き込んだりしながら、自分の思いや学習活動をそこに展開させていく。書く内容については、現在指導中であるが、基本は、読んでいくときに感じたこと、分かったこと、想像したことなどが中心である。また、辞書で引いた言葉の意味や文章のよさ、そして、今回の学習のめあてである「おもしろいところ」にも積極的に線を引いたり自分の言葉を書き込んだりし、自分の考えを深く掘り下げさせたい。グループ学習や自分のまとめを行う際にも利用していきたいと思う。書き込みノートの利用は3年生では、今回で2回目（1回目は「ちいちゃんのかげおくり」）である。

○短作文の指導

- ・全校での取組の一つであるが、お話朝会等で校長先生から聞いた話の内容をまとめさせたり、自分の感想や意見を付け加えたりし、聞いたことを基に書く力を育ててきた。書く際には、段落数を決めたりそれぞれの段落に何を書くか条件付けをしたりすることが、作文力の向上につながるものと思う。

○題名読み

- ・題名を大切に学習を積み重ねていく。毎時間の始まりに題名を読み、感じたこと・疑問に思ったことなどを書き込んだり話し合ったりしている。話す内容は、その時々で違うが、前時の振り返り、一番気になっていること、読み取りの感想等様々

である。各児童がその時間に解決したい話題を話すこともあり、主題にせまっていく糸口となることもある。題名は、どんな時も作品の大切な一部であるから、声に出して読むだけでなく、意見を持たせて物語への期待と想像を膨らませたい。これが、主体的な児童の育成にもつながると考える。

●世界の民話・昔話コーナー・ブックリストの作成

- ・学校の図書室や町の図書館から民話や昔話を60冊程度借り、学年の廊下に「民話・昔話コーナー」として設置する。本のブックリストも作り、並行読書・先行読書に取り組みさせる。「三年とうげ」の学習が進む中で「自分の紹介したい一冊」を決め、単元計画の後半において自分の本を紹介する際には、同じグループの友達もメンバーが紹介する本を読み終えているようにする。そのことが、話合いやアドバイスを活発にし、よりよい対話につながると考えられる。これまでの読書経験を「世界の民話」に広げるきっかけにしたい。さらにこれらの取組が主体的な読書習慣の形成につながっていくことを願っている。

●読書記録（世界民話の旅）

- ・自分が読んだ本を自分用のカードに記録する。また、学年の廊下に掲示した世界地図にどの国の本を読んだのかをシールなどではる。様々な国に民話があり、様々な違いや共通点があることに気付くきっかけになり、児童一人一人の読書活動への意欲付けになるようにしたい。

●「おもしろい」という意味の指導

- ・普段児童が使っている「おもしろい」という言葉にはたくさんの意味がある。しかし、実際には、あまり深く考えることなく、「おもしろい」という言葉を使っている。ここでは、「おもしろい」の辞書的な意味を話し合ったり、物語から選んだ「おもしろい」場面の理由を互いに伝え合ったりすることで、「おもしろい」の言葉の意味を深く考えさせていく。「三年とうげ」の持つ民話特有のおもしろさに気付き、起承転結の「転」の部分の持つおもしろさにも気付くことで、人物の気持ちの変化、人柄のおもしろさをとらえさせていきたい。友達と話し合ったり学び合ったりすることを通して、自分では気付かなかった「おもしろさ」に気付き、言語に対する意識もさらに広がることを期待したい。

手立て3

「伝え合う力の育成」

○話す・聞く態度の指導

- ・「話す・聞く」の基本はうなずく・相手を見る・相手のよさを見付けようとするよい聞き方にあると考える。「よい聞き手が話し手を育てる」と言われるように、ここでも多くの聞く活動を体験することで、よい聞き手になれるよう心がけていきたい。毎回の対話や交流での自分のめあてをはっきりさせ、少しずつ力を高めていきたいと思う。グループでの交流が気持ちよくできるようにしたい。

○相手意識・目的意識

- ・ゴールに向けて活動する際には常に「だれに、何を」という意識を持たせて取り組みたい。今回のゴールでできあがる「読書チケット」は、最終的には、家の人に自分のお薦めの民話を紹介するとき利用する。それまでに、友達に聞いてもらったり、アドバイスしてもらったりするが、家の人からは、読んだ感想がもらえるようなチケットなので、きっと意欲を持って読書カード製作に取り組んでいくことがで

きるであろう。また、周りの人との対話や交流が自分の考えを確かなものにする一つの手段になればと願っている。

●学び合うために

- ・グループ交流では、あ…あいさつをしてから、相手の目を見て
い…言いたいことをはっきりと
う…うなずく
え…笑顔
お…終わりまで話そう、聞こう 終わりのあいさつ

を意識して参加させる。交流の時間が気持ちよく行われ、さらに交流したことを生かして自分の考えを振り返ることができる時間にしたい。 【対話】

●ゴールの工夫

- ・「読書チケット」の作成に取り組む。「三年とうげ」の学習で作成した読書チケットは、廊下に掲示し、友達同士で読み合う。そして、自分の選んだ本の読書切符は、家の人におもしろかったところを紹介しながら渡す。家の人には、実際にその本を読んでもらい（学校で取り組んでいる親子読書の期間を中心に）読んだ感想、または紹介を聞いた感想をチケットに書いてもらって児童に返信してもらおう。実際に相手に紹介するときには、質問などもしてもらい、家の人との交流の一つとして楽しみたい。

読書チケット											
外側	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">題名</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">三年とうげ</td> <td style="text-align: center;">自分の名前</td> </tr> </table>	題名		三年とうげ	自分の名前	内側	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">あらすじ</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">おもしろいところ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">三年とうげ</td> <td style="text-align: center;">紹介</td> </tr> </table>	あらすじ	おもしろいところ	三年とうげ	紹介
題名											
三年とうげ	自分の名前										
あらすじ	おもしろいところ										
三年とうげ	紹介										
<p>※おもしろいところは「引用」と「その理由」を書く。</p> <p>返信を書いてもらおう。</p>											

4 単元の目標

- (1) 民話のおもしろさを見つけながら、進んで読書したり紹介したりしようとしている。
(関心・意欲・態度)
- (2) 民話を読んでおもしろいと思うところを紹介し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。
(読むこと)
- (3) 物語の組み立てをとらえ、登場人物の様子や気持ちの変化を想像しながら読むことができる。
(読むこと)
- (4) 文章中で使われている言葉の工夫に着目し、語句を増やすことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・民話のおもしろさを見つけながら、進んで読書したり紹介したりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の組み立てをとらえ、登場人物の様子や気持ちを想像しながら読んでいる。(ウ) ・民話のおもしろいところを紹介し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。(オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章中で使われている言葉の工夫に着目し、語句を増やしている。(オ)

<p>学習活動における具体的評価規準</p>	<p>①学習過程を知り、見通しを持って、学習に取り組もうとしている。 ②民話を進んで読もうとしている。 ③おもしろいと思ったところを進んでメモしようとしている。 ④交流や紹介活動で、気付いたことを伝えたりまとめたりしようとしている。</p>	<p>①物語の設定（時・場所・登場人物・中心人物）をとらえている。 ②話の4つの組み立てと場面对応させている。 ③「出来事・事件」をとらえ、人物の様子や気持ちの変化を読み取っている。 ④おもしろいと思ったところを、理由とともに書き表している。 ⑤紹介したいおもしろいところとその理由について、叙述を引用したり要約したりし、音読を工夫するなどして分かりやすく紹介している。 ⑥一人一人の感じ方の違いに気付いている。 ⑦気付いたことを友達に伝えたりノートに記録したりしている。</p>	<p>①時や場所、人物の行動や気持ちを表す言葉に着目している。 ②おもしろいところを表現するために、適切な語句を選んで使ったり引用したりしている。</p>
------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------

6 指導と評価の計画（9時間扱い）

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
0	<p>○※本単元に入る前に、自分の読書生活を見直す時間を持つ。（読書月間の読書量や内容）世界の民話・昔話コーナーを作り、ブックリストを提示する。 民話・昔話の読み進めを奨励する。（民話・昔話ブックカード開始）</p>		
1 2	<p>○教師の「読書チケット」をもとに、民話の紹介を聞き、単元の見通しとゴールの形をつかむ。 ○「おもしろい」ということについて話し合う。 ○「三年とうげ」の範読を聞き、大体のあらすじをつかみ、「おもしろいところ」をメモする。（書き込みノート・付箋） ○書き込みノートへの書き込みをする。</p>	<p>○学習の見通し・課題設定 ○学習のゴール 「読書チケット」の形 ○「おもしろい」とは… ・人物 ・出来事 ・様子 ・気持ちの変化 ・音の響き ・さし絵 ・民話独特の話の展開 ○おおまかなあらすじ ○おもしろいところメモ① ○書き込みノートの書き方</p>	<p>ア①③ オ① ・活動の観察 ・発言内容の考察 〈指導の手立て〉 ・ゴールの形を実際に見せたり、相手意識・目的意識を知らせたりすることで意欲を高める。 ・さし絵を有効に使う。</p>
3	<p>○「三年とうげ」を音読し、時・場・人物・物語の組み立てと場面をとらえる。（起・承・転・結） ○さし絵をもとに、あらすじの確認をする。</p>	<p>○物語の状況の読み取り ・さし絵の並び変えと場面 ○あらすじ ○チケットの書き方（あらすじの書き方の文例） （ ）が （ ）によって （ ）になるお話</p>	<p>ア③ エ①② オ① ・活動の観察 ・発言内容の考察 ・メモ・チケットの記述 〈指導の手立て〉 ・さし絵を使い場面をまとめる。 ・あらすじを書くために</p>

	<p>○あらすじを「読書チケット」に記入する。</p> <p>○おもしろいところを書き足す。</p>	<p>○おもしろいところメモ②</p> <p>○書き込みノートへの記入</p>	<p>起承転結の「転」に焦点をあてた文例を示す。</p>
4	<p>○「三年とうげ」の出来事とおじいさんの気持ちの変化を読み取る。</p> <p>○言い伝えの音読を工夫する。</p> <p>○おじいさんの気持ちの変化を考える。</p> <p>○おもしろいところをメモし、3～4人グループでの交流をする。(前半場面)</p>	<p>○出来事の整理</p> <p>○おじいさんの気持ちの変化の読み取り</p> <p>○おもしろいところメモ③</p> <p>○交流の仕方 話し方・聞き方のポイント</p>	<p>ア② エ③④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 ・発言内容の考察 ・メモ・チケットの記述(指導の手立て) ・音読を重視する。 ・書き込みノートの利用 ・メモの用紙は、2色に分け、引用と理由が書けるようにする。 ・交流の仕方について指導し、気持ちよい対話にする。
5 本時	<p>○「三年とうげ」の出来事とおじいさんの気持ちの変化を読み取る。</p> <p>○トルトリの人柄を話し合う。</p> <p>○おもしろいところをメモし、3～4人グループでの交流をする。(後半場面)</p>	<p>○出来事の整理</p> <p>○おじいさんの気持ちの変化の読み取り</p> <p>○トルトリの人柄</p> <p>○おもしろいところメモ④</p> <p>○交流の仕方</p>	<p>ア③ エ④ オ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 ・発言内容の考察 ・メモ・チケットの記述(指導の手立て) ・書き込みノートの利用 ・メモの用紙は、2色に分け、引用と理由が書けるようにする。 ・交流の仕方について指導し、気持ちよい対話にする。
6	<p>○「三年とうげ」のおもしろいところを他グループの友達と対話し、チケットにのせるものを決定する。(2つくらい)</p> <p>○チケットの仕上げをする。</p> <p>※今回のチケットは、廊下に掲示し学年の友達同士で見合い、よさを学び合う。それを、次時以降の自分の選んだ民話紹介活動に生かす。</p>	<p>○おもしろいところの交流</p> <p>○おもしろいところの確認・推敲</p> <p>○チケットの仕上げ方</p>	<p>ア④ エ⑤⑥ オ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 ・発言内容の考察 ・メモ・チケットの記述(指導の手立て) ・対話を通して、よりよいものになるようにお互いに考えを出し合う。
7 8	<p>○自分が選んだ民話について読書チケットをつくる。</p> <p>・「三年とうげ」で学んだ手順で、作成していく。</p>	<p>○紹介する本の選書</p> <p>○チケットの内容の確認</p> <p>○作成の手順の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選書(題名・作者・国) ・登場人物と中心人物 	<p>ア③ エ④ オ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 ・発言内容の考察 ・チケットの記述(指導の手立て)

	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに書いてきたメモの整理をする。 ・本のよさが伝わるように、おもしろさを選ぶ。 ・自分の思いがしっかり伝わるように発表の仕方を工夫し、練習したりアドバイスし合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時・場所 ・あらすじ ・おもしろいところのメモ ・始まりと終わり ・出来事 ・中心人物の気持ちの変化 ・分かりやすい紹介のための交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・本の用意・読書記録（記録・ブックカード）の用意を0時から行う。 ・ここまでに選んだ本にメモをどんどん貼らせておき、手順を参考にそれらを整理させていく。
9	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が選んだ民話をグループの友達に紹介する。 ・紹介方法の確認 手振り・音読・動作化・絵などを加えてもよい。 ・聞き方の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○紹介の仕方 ○友達の紹介の聞き方 ・あいさつ・発表・感想やアドバイス・挨拶の順で ○学び合いの方法 	<ul style="list-style-type: none"> ア④ エ⑥⑦ オ② ・活動の観察 ・発言内容の考察 ・紹介の様子（指導の手立て） ・紹介方法の手順を示す。 ・挨拶をさせ、気持ちのよい交流の場となるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>できた読書チケットは、家の方に紹介しながら手渡しする。（本を読んだらチケットの返信欄に感想を書いて返してもらおう。）学年や図書室の廊下への掲示もする。</p> </div>			

7 本時の学習指導（5／9時）

(1) 目標 ○おじいさんの気持ちの変化を読み取り、おもしろいところを見付け、理由とともに書くことができる。

(2) 評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
③民話を進んで読み、おもしろいと思ったところを進んでメモしようとしている。	④人物の様子や気持ちの変化を読み取り、おもしろいと思ったところを、理由とともに書き表すことができる。	②おもしろいところを表現するために、適切な語句を選んで使ったり引用したりすることができる。

(3) 展開

学習活動	学習内容	○指導・支援と評価の創意工夫 ☆仮説に対する手立て【対話】	
1 題名を読む。 学習課題を確認する。	○題名読み ○学習のめあての確認	○これまでの読みの中から、おもしろいところを伝える。	2
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>おじいさんの気持ちの変化やトルトリの人がらを読み取り、おもしろいところを伝え合おう。</p> </div>			

<p>2 音読をする。</p>	<p>○一斉音読</p>	<p>○声を合わせる気持ちよさを十分味わわせたい。物語の後半部分を音読させる。 (P 5 2 L 1 2 ~ P 5 8 L 2) ○言い伝えのうたのところは、特にリズムに乗って楽しく読ませたい。</p>	<p>5</p>
<p>3 後半の場面を読み取る。 おじいさんの心情を想像する。</p>	<p>○読み取り おじいさんの行動整理 おじいさんの心情曲線 おじいさんの顔つき</p> <p>○「転ぶ」の比較 前半 ・ころばないように気をつけていたのに ・三年しか生きられなくなった ・病気になった 後半 ・自分からわざと ・一度転べば三年生きられる ・うれしい ・元気になった</p> <p>○トルトリの人柄 頭のいい 知恵のある おじいさん思い かしこい</p>	<p>○おじいさんの行動や心情を中心に読み取りを深めていく。 ☆行動は叙述に基づいて、心情はつぶやきを考えたり、心情曲線を動作化で表現させたりしながら豊かに想像させる。その際に今まで書き込んできたノートを参考にさせる。 ○後半の場面だけの読み取りではなく、話全体を意識し、読み取るようにさせる。 ☆2枚のさし絵（おじいさんが注意していたのに転んでしまったときとトルトリの言う通りに転んだとき）の比較を通しておじいさんの心情の変化を深く読み取る。 ○物語の展開のおもしろさや繰り返しの楽しさにも浸らせたい。 ☆「<input type="text"/>トルトリ」に合う言葉を考え、さらに理由を言わせることで、トルトリの人物像を話し合わせる。 【対話】</p>	<p>15</p>
<p>4 おもしろいところの中から伝えたいものを選ぶ。 グループでの交流をする。</p>	<p>○おもしろいところの選択 (今日の場面、または、前時の場面との比較で考える) ○交流 ○書き直し推敲</p>	<p>○書き込みノートを参考にして、今日の読みを加え、選択させる。 ☆2色のカードを用意し、1色には文章の中からの引用を書かせ、もう1色にはその理由を書かせる。 ☆友達との交流では、よいところを中心に互いに感想を伝え合い、自分の推敲に役立てるようにする。 【対話】</p>	<p>20</p>

		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">評価場面</div> 〈学習活動に即した評価規準〉 アの③ オの② 〈評価方法〉 ・カードへの記入内容の考察と交流の様子 〈手だて〉 ・2色のカードを用意し、引用と理由が書けるようにする。 ・交流のポイントを提示し、聞く側の態度にも十分留意させる。気持ちよく交流が行えるようにする。 ・交流したことを基に自分の考えをもう一度振り返るよう声をかける。	
5 本時の学習を振り返り、次時への見通しを持つ。	○最後の場面の音読 ○今日の学習の評価 ○次時の学習内容の確認	○物語の最後の部分を音読し、余韻を楽しむ。 ○今日の学習の振り返りをし、次時の学習への意欲を高める。	3

(4) 板書計画

おもしろい

二度目の「転ぶ」のさし絵

転ぶ

転ぶ

一度目の「転ぶ」のさし絵

おじいさんの気持ちの変化やトルトリの人がらを読み取り、おもしろいところを伝え合おう。

付箋(黄緑)

理由

付箋(ピンク)

引用

自分からわざと一度転べば三年生きられる
うれしい
元気になった

気をつけていたのに三年しか生きられない
病気になった

トルトリ

頭のいい知恵のあるやさしい

顔を出す
うなずいた
はね起きた
わざと転んだ
ふもとまで転がり落ちた
にこにこわらった
すっかり元気になり長生きした

交流・対話のポイント
お　く　あ

三年とうげ

李 錦玉 作